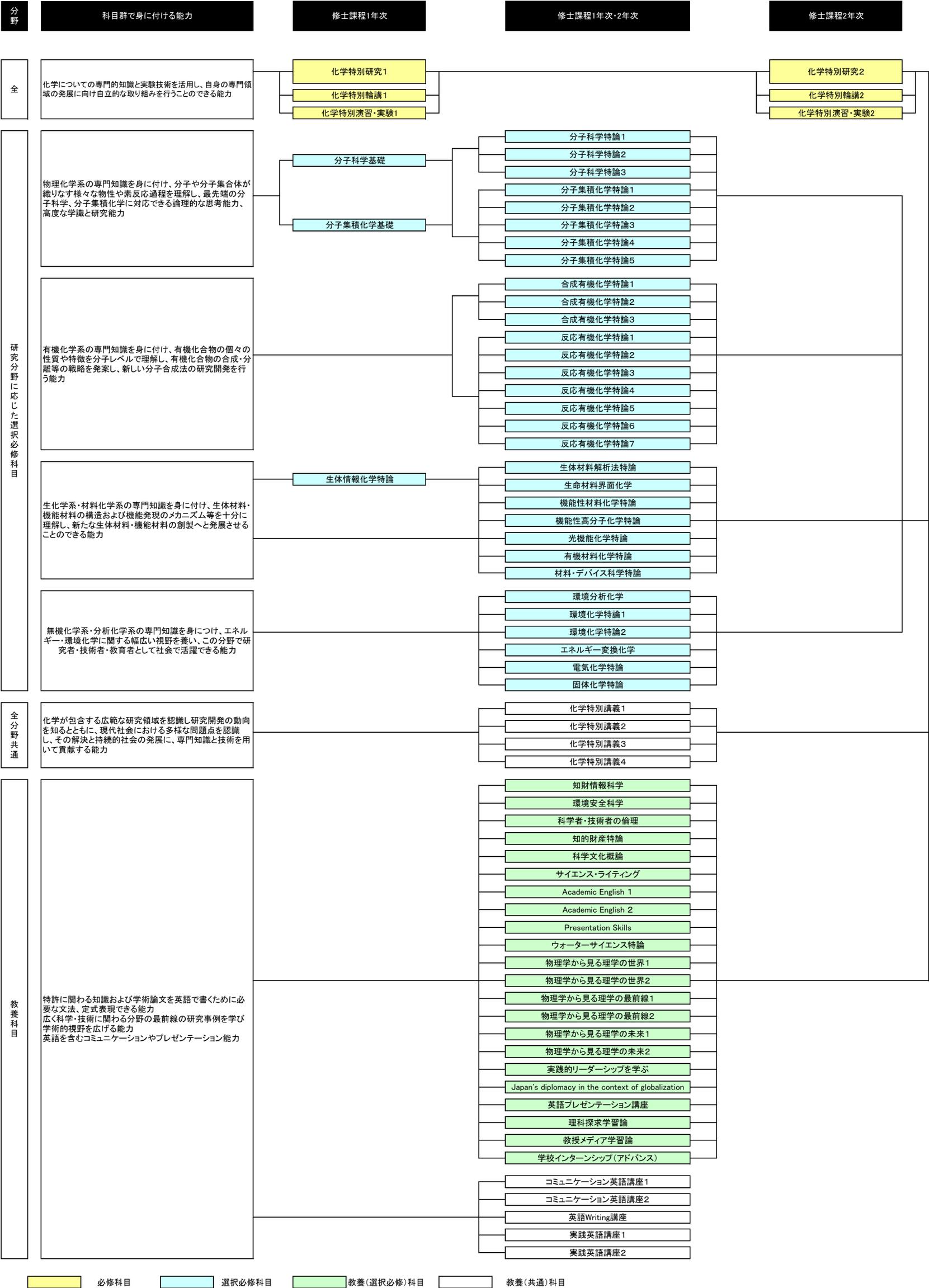


人材養成等に関する目的
物質(分子、分子集合体、生体関連分子、生細胞、機能性材料等)に関する基礎的な物性、変化、諸現象を深く理解し、各専門分野における高度な専門知識及び応用能力を持ち、持続可能な住みよい社会の構築に貢献することのできる社会的良心に溢れる人材を育成するとともに、自立した研究活動によって化学の学術水準の向上に寄与することのできる研究者・技術者・教育者を養成します。
修士課程は、化学に携わる研究者・技術者・教育者として、理学部化学系学科における一般および専門的教育の基礎の上に化学に関する深い学識を修め、持続可能な住みよい社会の構築に貢献することのできる能力を備えた人材を育成・輩出することを目的とします。

カリキュラムポリシー
1. 修士課程においては、基礎から応用に至る広範な学問領域を包含する教育課程を構成する。
(1)「専門科目」では、物理化学、無機及び分析化学、有機化学の専攻分野を横断した、①分子集積・分子科学、②エネルギー・環境化学、③機能・生体材料化学、④合成・反応有機化学、などの授業科目を配置し、高度な専門的知識と実験技術の習得並びに現代社会における様々な問題点を認識・解析し、それらに対処する総合的な能力を開発する教育課程を構成する。
(2)「一般教養科目」では、コミュニケーション能力、倫理観、国際性を養う授業科目を配置する。
(3)「研究指導」では、国内外学術論文の調査を通じて化学研究分野の研究動向を把握し、指導教員及び副指導教員との議論を通じて自身の研究成果の位置づけを理解するとともに今後の研究計画を立案し、国内外の学会等での発表及び学術論文の発表を通じて自身の研究成果を正確かつ的確に表現する能力を養う。



必修科目 選択必修科目 教養(選択必修)科目 教養(共通)科目